

平成17年度財団法人国際エメックスセンター事業報告書

1 一般事項

(1) 理事会の開催

ア 第13回理事会

開催年月日 平成17年6月1日(水)

開催場所 兵庫県公館 第2会議室

議案等

・議案

議案第1号 平成16年度事業報告に関する件

議案第2号 平成16年度収支決算報告に関する件

議案第3号 評議員の補欠選任に関する件

イ 第14回理事会

開催年月日 平成18年3月30日(木)

開催場所 兵庫県公館 第1会議室

議案等

・議案

議案第1号 平成17年度事業計画書の変更に関する件

議案第2号 平成17年度収支予算書の変更に関する件

議案第3号 平成18年度事業計画(案)に関する件

議案第4号 平成18年度収支予算(案)に関する件

議案第5号 改選に伴う理事長等の互選に関する件

議案第6号 任期満了に伴う評議員の改選に関する件

議案第7号 任期満了に伴う顧問の改選に関する件

議案第8号 任期満了に伴う科学・政策委員会委員の改選に関する件

・報告事項

報告第1号 第7回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMEC S7)について

(2) 評議員会の開催

ア 第12回評議員会

開催年月日 平成17年6月1日(水)

開催場所 兵庫県公館 第2会議室

議案等

・議案

議案第1号 平成16年度事業報告に関する件

議案第2号 平成16年度収支決算報告に関する件

イ 第13回評議員会

開催年月日 平成18年3月24日(金)

開催場所 兵庫県公館 第2会議室

議案等

・議案

議案第1号 平成17年度事業計画書の変更に関する件

議案第2号 平成17年度収支予算書の変更に関する件

議案第3号 平成18年度事業計画(案)に関する件

- 議案第4号 平成18年度収支予算(案)に関する件
- 議案第5号 任期満了に伴う理事及び監事の改選に関する件
- ・報告事項
 - 報告第1号 任期満了に伴う科学・政策委員会委員の改選について
 - 報告第2号 第7回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMEC S7)について

(3) 第7回科学・政策委員会の開催

開催年月日 平成17年12月6日(火)
 開催場所 国際健康開発センタービル内 国際交流ホール
 議 題
 第7回エメックス会議(EMEC S7)について
 第8回エメックス会議(EMEC S8)について
 エメックス会議の成果と今後の展望について
 科学・政策委員会の今後の活動の方向について

2 事業の実施

(1) 閉鎖性海域環境保全推進事業

ア 湾奥部における環境創造方策に関する調査研究

大阪湾奥部など湾奥部は、古くから生産活動の用に供するために、海面の埋立が様々に進められてきた。この埋立により、水質や底質の悪化、生物の生息環境の悪化等の環境変化が生じてきた。このような湾奥部の環境の再生をめざし、尼崎港に設置している人工干潟等を研究者等との共同研究の場として管理し活用を図ってきた。また、これらの施設を設置している場を活用し、社団法人日本鉄鋼連盟等が実施している「鉄鋼スラグ水和固化体による直立護岸の環境修復技術に関する尼崎港域での実証研究」の共同研究に参加した。

イ 油処理剤等環境影響に関する調査(環境省地球環境局委託事業)

大規模な油流出事故等においては、迅速な回収処理作業が被害の拡大を防止する上で重要となるとともに、油処理剤等が大きな役割を果たすことが想定される。一方、油処理剤等の使用に関して環境への影響が憂慮されることから、これまで「油処理剤等の適正使用について広く国民と共有しうる情報の整理及び提供」を目的として各種調査を行ってきた。しかしながら、油処理剤等を適正に使用するためには、油処理剤の毒性に関する情報や海域での挙動に関する情報等のほか関係者の事前の合意形成等も必要である。

このため、油流出事故に対する迅速な対応をめざし、最新の情報を盛り込み、地方自治体等において油処理剤使用の可否の判断を行う指針を策定するためのマニュアル等について、学識経験者による委員会を設置し、調査・検討を行った。

平成17年度油処理剤等環境影響に関する調査検討会

調査検討会委員等

・委員

座長	岡田 光正	広島大学理事・副学長
委員	小倉 秀	独立行政法人海上災害防止センター調査研究室長兼防災訓練所長
委員	小松 輝久	東京大学海洋研究所助教授
委員	小山 次朗	鹿児島大学水産学部海洋資源環境教育研究センター教授
委員	牧 秀明	独立行政法人国立環境研究所流域圏環境管理研究プロジェクト海域環境管理研究チーム研究員
委員	茂木 幹基	海上保安試験研究センター化学分析課専門官
委員	若林 明子	淑徳大学国際コミュニケーション学部教授

・オブザーバー

国土交通省総合政策局環境・海洋課海洋室
国土交通省海事局検査測度課
海上保安庁警備救難部環境防災課
水産庁増殖推進部漁場資源課
流出油処理剤懇話会
粉末油ゲル化剤懇話会
財団法人漁場油濁被害救済基金
全国漁業協同組合連合会

調査検討委員会の開催

a 第1回検討会

開催年月日 平成17年9月28日(水)

開催場所 東京国際フォーラムG408会議室

検討内容

- ・検討会の構成と座長の選出
- ・油処理剤等環境影響に関する検討調査の経緯について
- ・「油処理剤使用判断指針策定マニュアル」の構成案と「共同省令の技術上の基準の改正を視野に入れた検討」の進め方について
- ・その他

b 第2回検討会

開催年月日 平成18年1月11日(水)

開催場所 東京国際フォーラムG405会議室

検討内容

- ・第1回油処理剤等環境影響に関する調査検討委員会における指摘事項とその対応について
- ・「油処理剤使用判断指針策定マニュアル」の構成案について
- ・「共同省令の技術上の基準の改正を視野に入れた検討」について
- ・その他

b 第3回検討会

開催年月日 平成18年3月13日(月)

開催場所 航空会館502会議室

検討内容

- ・第2回油処理剤等環境影響に関する調査検討委員会における指摘事項とその対応について
- ・「油処理剤使用判断指針策定マニュアル」の構成案について
- ・「共同省令の技術上の基準の改正を視野に入れた検討」について
- ・その他

ウ 自然を活用した水質改善方策検討調査 [瀬戸内海再生事業] (兵庫県委託事業)

典型的な富栄養化海域である阪神臨海部において、自然の復元力を活用した再生を促進させるため、尼崎港に設置している浮体式藻場等でのワカメやアオサの増殖による水質浄化やそのバイオマスの活用としてのメタン発酵技術等について、神戸大学、徳島大学、大阪府立大学と共同研究を行い、成果のとりまとめを行った。それぞれの研究テーマは次のとおりである。

- ・神戸大学 : 植物系バイオマスの回収技術確立及び有効利用検討
- ・徳島大学 : 動物系バイオマス回収技術の研究

- ・大阪府立大学 : 海産生物のバイオマス利用方法検討(ガス化実験)及び発酵残渣の成分分析調査

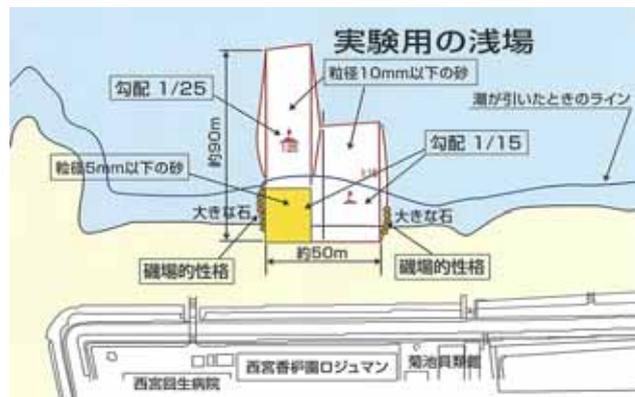
工 御前浜水環境再生調査事業(兵庫県阪神南県民局委託)

大阪湾の阪神間において数少ない自然の砂浜があり、ウォータースポーツや散策など市民の憩いの場となっている兵庫県西宮市御前浜は、周囲を埋立地に囲まれた閉鎖性海域であり、水環境の悪化が進み、生物の生息しにくい場所となっている。下水道の普及等によりこの海域に流入する河川の水質が改善され、御前浜の水質も良くなってきているが、まだまだ十分ではない。この御前浜の水環境を再生するため、兵庫県阪神南県民局は、人々が水に親しみ、憩える御前浜をめざし平成15、16年度に専門家のほか地元住民団体等を含めて、御前浜の水環境再生のための実証事業の検討等を行ってきた。平成17年度は、これらの検討結果に基づき、実証実験施設としての浅場の造成等を行うこととした。

このため、兵庫県阪神南県民局の委託を受け、平成16年度に設けた専門家委員会の委員の意見を聞きながら御前浜水環境再生実証実験施設としての浅場の詳細設計を行い、浅場を造成し、生物付着状況や水質のモニタリングを行った。また、水環境再生への県民の参画と協働の促進を図るため、フォーラム等の啓発事業を実施した。また、阪神南県民局が設置し、学識経験者や市民団体等が参加する「御前浜水環境再生懇話会」への資料作成等の業務を行った。

実証実験施設(浅場)の概要

- ・幅 約50m、長さ(沖側) 最長約90m
- ・勾配 1/15及び1/25
- ・砂の粒径(中央粒径) 1.0mm及び2.0mm



モニタリング

事前調査(浅場造成前調査)

- ・実施時期 平成17年10月
- ・項目 水深、底質(ヘドロ堆積状況、粒度組成、COD等)、水質(DO、透明度等)、底生生物

予備調査(浅場造成後調査)

- ・実施時期 平成18年1月
- ・項目 水質(DO、透明度等)、底生生物、付着生物(目視のみ)

長期モニタリング調査

- ・実施時期 平成18年3月
- ・項目 底質(ヘドロ堆積状況、粒度組成、COD等)、水質(DO、透明度等)、底生生物、付着生物

御前浜ワークショップ「みんなの浜辺調査」

第1回開催

開催年月日 平成17年7月22日(金)
開催場所 兵庫県立海洋体育館研修室及び御前浜
指 導 上月康則(徳島大学大学院工学研究科助教授)
参加者数 約22名
概 要

- ・御前浜クイズ
- ・アサリの海水浄化実験
- ・水質調査とプランクトン観察
- ・班ごとの浜辺での生き物調査
- ・生き物マップの作成
- ・活動のふりかえり

第2回開催

開催年月日 平成17年10月15日(土)
開催場所 兵庫県立海洋体育館研修室及び御前浜
指 導 上月康則(徳島大学大学院工学研究科助教授)
参加者数 約38名
概 要

- ・アサリの海水浄化実験
- ・水質調査
- ・班ごとの浜辺での生き物調査
- ・生き物マップの作成
- ・活動のふりかえり

御前浜(香櫨園浜)水環境再生市民フォーラム「とりくもう水環境の再生」

開催年月日 平成18年3月19日(日)
開催場所 西宮浜産業交流会館ホール
参加者数 約70名
概 要

- ・基調講演
「大阪湾再生行動計画と御前浜水環境再生 - 御前浜水環境再生に期待すること - 」
上嶋英樹 広島工業大学大学院環境学研究科教授
- ・大阪湾・御前浜クイズ
中西 敬 大阪市立大学非常勤講師
- ・御前浜の浅場紹介
阪神南県民局環境課
- ・モニタリング結果の報告と今後の予定
上月康則 徳島大学大学院工学研究科助教授
- ・質疑応答、会場意見
- ・浅場の見学

御前浜水環境再生懇話会(兵庫県阪神南県民局設置)開催状況

第1回開催

開催年月日 平成17年11月24日(木)
開催場所 兵庫県立海洋体育館研修室
概 要

- ・実証実験施設(浅場)について
- ・御前浜のモニタリングについて

第2回開催

開催年月日 平成18年3月2日(木)

開催場所 兵庫県立海洋体育館研修室
概要

- ・周知用看板について
- ・御前浜のモニタリング調査について
- ・御前浜水環境再生事業の啓発事業について

オ 第7回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS7）開催準備

第7回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS7）は、平成18年5月にフランス・カーン市で開催することとしている。この会議の成功に向けて、現地に国際組織委員会及び事務局が設置された。開催内容等について現地事務局と調整を行うとともに関係機関との協議を行った。また、日本からの参加者の支援等を行うため「第7回エメックス会議日本委員会」を関連機関とともに設置した。

第7回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS7）の概要

テーマ 「閉鎖性海域の持続可能な共同発展：私達の共有責任」

開催期間 2006年5月9日（火）～12日（金）

開催場所 フランス バス・ノルマンディ地域圏 カルバドス県 カーン市
カーン・エキスポ・コンGRESセンター

主催・共催団体等

- ・主催：GEMEL（フランス河口・沿岸域環境研究学会）
ECSA（河口域・沿岸科学学会）
財団法人国際エメックスセンター
- ・共催：カーン大学、バス・ノルマンディ地域圏、カルバドス県、カーン市
仏海洋学会、仏国立海洋研究所、ノルマンディー・セヌ水道事業団、
カーン都市圏共同体、アジア太平洋地球変動研究ネットワーク
- ・支援：国連環境計画（UNEP）、ユネスコ（UNESCO）、
経済協力開発機構（OECD）、MEDCOAST（地中海沿岸国際会議）、
その他関係団体、民間企業
- ・事務局：GEREL（河口域沿岸資源環境保全協会）

分科会テーマ

- 1) 沿岸海洋科学における近年の進歩
- 2) 生態系の特徴：コンセプトとケーススタディ
- 3) 沿岸域管理における新しいコンセプトと新たな経験
- 4) 協働と地域社会からの参画 - 環境問題への継続的な取り組みと啓蒙
- 5) ネットワークと21世紀における教育 - コミュニケーションの挑戦

全体会議セッション

欧州の沿岸海域（5月9日）

ラウンドテーブル、EMECS宣言、表彰、次回会議発表（5月12日）

特別分科会：

- 1) アジア太平洋沿岸セッション（5月10日）
- 2) 青少年環境教育交流セッション（5月10日～11日）
- 3) UOF（仏海洋科学者連合）若手研究者フォーラム（5月10日～11日）

日程

月日	午前	午後	夕刻
5月9日 (火)	開会式(全体会議) 歓迎挨拶 基調講演 全体セッション: 欧州の沿岸海域	技術セッション 1 (a) 技術セッション 2 (a) ポスターセッション	歓迎 パーティー

5月10日 (水)	特別セッション アジア太平洋沿岸セッション 特別セッション 青少年環境教育セッション (Part A) 技術セッション 1 (b) 技術セッション 2 (b) 技術セッション 3 (a)	特別セッション 青少年環境教育セッション (Part B) 技術セッション 1 (c) 技術セッション 2 (c) 技術セッション 3 (b)	
5月11日 (木)	特別セッション 青少年環境教育セッション (Part C) 技術セッション 1 (d) 技術セッション 3 (c) 技術セッション 4 (a) 技術セッション 5 (a)	特別セッション 青少年環境教育セッション (Part D) 技術セッション 2 (d) 技術セッション 3 (d) 技術セッション 4 (b) 技術セッション 5 (b)	
5月12日 (金)	技術セッション 2 (e) 技術セッション 3 (e) 技術セッション 4 (c)	ラウンドテーブル 閉会式(全体会議) EMECS 宣言 賞状贈呈式 次回会議発表	

会議実行組織

(1) 国際組織委員会

ニコル・ル・ケルレ (委員長)	カーン大学学長
茅 陽一	財団法人国際エメックスセンター会長
ベルナル・シルボン	仏GERL会長 (河口域沿岸資源環境保全協会)
ジャン・ポール・デュクロトワ	仏GEMEL (仏河口・沿岸域環境研究学会) 理事/英ハル大学名誉教授
マイク・エリオット	ECSA (河口域・沿岸科学学会) / 英ハル大学教授
ウェイン・ベル	米ワシントン大学環境社会センター上席講師
エルダール・オーザン	MEDCOAST会長・トルコ・ムーラ大学教授
熊本信夫	北海学園大学学長 (財団法人国際エメックスセンター科学・政策委員会委員長)
ローレンツ・ローレンツェン	経済協力開発機構 (OECD) 環境局長
イヴィツァ・トゥルンビッチ	国連環境計画 (UNEP) PAP/RACセンター所長
フレッド・ブッチョルズ	独AW研究所ヘイゴランド海洋実験所教授
スチュアート・エバンス	英ニューキャッスル大学ダブ海洋研究所教授

(2) プログラム部会

ジャン・ポール・デュクロトワ (部会長)	仏GEMEL (仏河口・沿岸域環境研究学会) 理事/英ハル大学名誉教授
ベルナル・シルボン	仏GERL会長 (河口域沿岸資源環境保全協会)
クレール・マリオン	仏GEMEL会長 (仏河口・沿岸域環境研究学会)
渡辺正孝	慶応大学教授
柳 哲雄	九州大学応用力学研究所教授
エルダール・オーザン	MEDCOAST会長/トルコ・ムーラ大学工学部長・教授
ウェイン・ベル	米ワシントン大学環境社会センター上席講師
ディビッド・キャロル	米ボルチモア郡環境保護資源保全局長
ベン・ヤンソン	スウェーデン・ストックホルム大学名誉教授

第7回閉鎖性海域環境保全会議の開催に向けて、我が国の閉鎖性海域の環境の現状と環境保全に関する取り組み等を紹介する資料（CD-ROM）を会議資料として作成した。

キ ブラジル・パラナ州への環境協力事業

閉鎖性海域における環境対策等について、兵庫県と共同してブラジル・パラナ州との環境協力を推進するため、ブラジル・パラナ州で開催された環境交流会議等に兵庫県等とともに参加し、当センターが取り組む海の環境学習について事例発表を行うとともに、関係機関の視察等を行い、意見交換を行った。

実施期間 平成17年8月8日（月）～8月11日（木）

概要

- ・パラナ大学との打ち合わせ、クリチバ市役所訪問（8月8日）
- ・都市計画公社訪問、クリチバ市環境局訪問（8月9日）
- ・環境学習現場等視察、環境交流会議出席（8月10日）
- ・イグアス国立公園エコツーリズム視察（8月11日）

ク アジア太平洋沿岸域環境白書の発行（地球環境基金助成事業）

第5回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS2001）のアジアフォーラムで提案されたアジア沿岸域の総合アセスメントの実現に向けて、アジア太平洋沿岸域環境白書作成のための運営委員会（Steering Committee）により選ばれた各国の研究者により「アジア太平洋沿岸域環境白書」の原稿執筆の依頼を行い、執筆原稿について査読、英文校正等所要の編集作業を行った。

ケ 閉鎖性海域に係るNGO協働事業の推進

第5回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS2001）NGOフォーラムのフォローアップ事業で得られた国内NGO等との連携の成果を引き継ぎ、発展させていくために、NGOが開催するシンポジウム等への参加など交流の推進を図った。

コ 閉鎖性海域環境保全活動支援事業

閉鎖性海域の環境の保全と適正利用を目的とする学術的な会議等に対して、他の関連機関との関係を築くとともに、会議等の成果をセンターの活動に反映させるため、助成を行った。

平成17年度に助成した事業

対象団体名 瀬戸内海研究会議

対象事業名 瀬戸内海研究フォーラム in 奈良

開催年月日 平成17年9月8日（木）～9日（金）

開催場所 なら100年会館

テーマ 水・風景・物語の瀬戸内海 - 古都からのアプローチ -

内容

セッション概要

- ・第1セッション 風景と観光
- ・第2セッション 環境保全・創造に関する研究報告
- ・第3セッション 地下水の保全
- ・第4セッション 記憶と物語

ポスターセッション

サ エメックス国際セミナーの開催

海外の科学・政策委員会委員により、海外の現状等について最新の話題を提供するためエメックス国際セミナーを開催した。本年度は、平成18年5月に第7回エメックス会議が開催されることから、EMECS7プレイベントとして開催した。

開催年月日 平成17年12月7日（水）

開催場所 国際協力機構兵庫センター（JICA兵庫）
テーマ インド洋と南太平洋における昨今の海域環境事情
参加者数 約80名
プログラム

座長：熊本信夫（北海学園大学教授、国際エメックスセンター科学・政策委員会委員長）
セッション1

「第7回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS7）の開催について」

ジャンポール・デュクロトワ（GEMEL 理事、英・ハル大学名誉教授）

セッション2

講演1 「スマトラ沖地震・インド洋津波による沿岸環境への影響～タイの事例～」

ピラムサック・メナサウエイド（タイ・チュラロンコン大学科学部長）

講演2 「河口・沿岸域の生態水文学～南太平洋沿岸域におけるモデリング～」

エリック・J.A・ウォランスキー（オーストラリア海洋科学研究所指導科学者）

（2）情報収集整備活用事業

ア 閉鎖性海域環境情報システムの構築（環境省水環境部請負事業）

閉鎖性海域の環境情報に係る国際的な情報ネットワークを構築し、閉鎖性海域に関する各研究分野の研究成果、水質等の環境データ、社会経済データ等の情報をインターネットを通じて、研究者、行政関係者等が活用できるシステムの構築を図るため、平成13年度に内容の検討を行い、平成14年度にクリアリングハウス方式のシステム構築を図り、運用を開始した。このシステムの改良等を図るため平成15年度、平成16年度に引き続き「平成17年度閉鎖性海域環境情報整備等検討委員会」を設置し検討を行い、整備データの充実を行った。

平成17年度閉鎖性海域環境情報整備等検討委員会

検討委員会委員

座長	柳 哲雄	九州大学応用力学研究所教授
委員	浅野 能昭	財団法人地球環境戦略研究所(IGES)上席研究員 淡水資源管理プロジェクトサブリーダー
委員	高山 進	三重大学生物資源学部教授
委員	橋詰 博樹	アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)センター長
委員	信岡 尚道	茨城大学工学部都市システム工学科講師

検討委員会の開催

a 第1回委員会

開催年月日 平成17年10月24日（月）

開催場所 東京国際フォーラム G509会議室

検討内容

- ・委員の構成と委員長の選出
- ・閉鎖性海域環境情報システム構築と推進方策について
- ・平成17年度の閉鎖性海域環境情報システムの利用状況について
- ・その他

b 第2回委員会

開催年月日 平成18年2月2日（木）

開催場所 東京国際フォーラム G609会議室

検討内容

- ・閉鎖性海域環境情報システムの整備結果について
- ・平成18年度閉鎖性海域環境情報等整備方針（案）について
- ・その他

情報整備海域の状況

平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
チェサピーク湾	北海	メキシコ湾	紅海
バルト海	黒海	サンフランシスコ湾	ハドソン湾
瀬戸内海	地中海	ペルシャ湾	ピュージェット湾
タイ湾	渤海	黄海	カリブ海

今後の整備予定海域

カリフォルニア湾、東シナ海、南シナ海、日本海、ベンガル湾

イ 情報収集・提供システムの運営

世界の閉鎖性海域の環境の保全と適正な利用に関する情報を収集、加工するとともに、インターネットを通じて情報の提供・交流を行うシステムの運用、管理の充実を図った。

また、インターネットホームページ上の掲示板「誰でも参加 - 海のネット会議」の管理・運用を行った。このシステムは、当センターのホームページを活用した掲示板であり、このネット会議を通じて多様なセクターの関係者が、閉鎖性海域の環境保全・創造に関する意見・情報の交換を可能とするため構築されたものである。

ウ エメックスニュースの発行

閉鎖性海域に関する情報提供等のため「エメックスニュース」を発行している。平成17年度は、第7回エメックス会議の開催のPR等のため、第24号を発行した。

第24号エメックスニュース

- ・EMECS7 国際組織委員会委員長からのメッセージ
- ・EMECS7の概要
- ・EMECS7 開催準備にあたって 「ノルマンディーからオリスターノまで<1>」
- ・エメックス国際セミナー開催報告

エ 地域担当者によるエメックス活動の推進

人的ネットワーク構築するとともに、第7回エメックス会議の成功に向けて、海外の科学・政策委員をフランスの現地での会議等に派遣し、エメックス活動のPR等を行った。

(3) 普及啓発・人材育成事業

ア 閉鎖性海域の水環境管理技術研修（国際協力機構（JICA）委託事業）

我が国の閉鎖性海域の環境保全施策実施の経験を基に、開発途上国の中堅行政官を対象とした「閉鎖性海域水環境管理技術研修」を行った。

研修の目的

閉鎖性海域及び沿岸域の環境管理に従事する開発途上国の中堅行政担当官等を対象に、我が国の水質保全など閉鎖性海域等の環境管理に関する経験とその技術の移転を通じ、各国行政担当官等のレベルアップを図り、今後各国において閉鎖性海域等の環境管理分野における指導的役割を担う人材の育成を目的とする。

研修期間

平成17年9月5日（月）から10月28日（金）まで

研修リ - ダ -

京都大学大学院工学研究科環境工学専攻 津野 洋教授

研修生

ブラジル、チリ、コートジボワール、インドネシア、キリバス、パキスタン、フィリピン、サウジアラビアの8カ国、計8名

主な研修場所

JICA兵庫国際センター

研修の内容

- a 講義 環境管理、水質に係る基礎理論の講義
- b 実習 排水処理・分析技術等の実習
- c 現地実習 環境に関する研究所や漁業関係施設、排水処理施設、環境教育現場等での実習

研修生一覧

名前	出身国	年齢	所属
アディウソン・シリックマン・スペルフェルド	ブラジル	37	サンタ・カタリーナ州環境保護警察指令官
マルコ・アンドレイ・カルパハル・キントウラン	チリ	29	チンクイヘ財団開発部技術補佐
コドー・ノエル・ゴグブー	コートジボワール	34	環境省コートジボワール公害防止センター衛生技師補佐
ニア・クルニア	インドネシア	41	海事漁業省養殖総局海洋養殖技術課主任
マリー・マラエ	キリバス	25	環境・国土・農業省
ムハマッド・ヤーヤ・サイド	パキスタン	47	Sindh 環境保護庁上級科学官
グレナディ・リヴェラ・ルアロ	フィリピン	33	ドン・マリアノ・マルコス記念州立大学教員
ハテム・モハメッド・アゾウズ	サウジアラビア	29	気象・環境統括本部環境観測員

(参考) 研修生合計(平成2年度～平成17年度) 28カ国 110名
(社団法人瀬戸内海環境保全協会の実施分を含む)

イ 「海」の環境教育の実施(兵庫県阪神南県民局委託事業)

尼崎港に設置している人工干潟・磯・石積み閉鎖性干潟・エコシステム護岸を活用して、自然を喪失した大阪湾奥部の尼崎で、阪神間の小中学生等を対象に、海の機能、浅場の機能や役割、大阪湾・尼崎港の現状、海の生物等について知る、触れる、考えることができるプログラムによる環境学習を行った。

実施時期 平成17年6月から平成18年3月まで

実施場所 尼崎港内の実証実験施設及び武庫川下流浄化センター会議室

実施回数 5回

参加者数 117名

主なプログラム内容

- ・環境教育DVD「きれいな海をとりもどそう」の放映
- ・デジタル顕微鏡を使用した尼崎港内の海水中のプランクトンの観察
- ・二枚貝を使った海水浄化実験
- ・水質測定
- ・実証試験施設の人工干潟等で捕獲された生物の観察
- ・体験学習(季節特性に合わせた潮干狩り、ワカメの生育)
- ・その他

ウ 「母と子の島」を中心とした海の環境教育・学習事業(兵庫県委託事業)

兵庫県立母と子の島において、海に親しみ、海のすばらしさを体感し、海の環境保全の重要性について学ぶ体験型環境学習を子ども対象に実施した。実施にあたっては、大学生サポーターを育成しつつ、サポーターとの協働により企画・運営を行った。

実施期間 平成17年6月～平成18年2月

開催場所 県立母と子の島ほか

参加者数 県内小・中学生 30人
サポーター 19人(大学生)

実施内容

- ・施設を中心として磯の生き物調査や砂浜での漂流物調査等の環境教育・学習の実施
- ・施設におけるサポーター、環境教育・学習にかかわるサポーターとして、環境教育・学習に携わる指導者等人材の育成

安全管理

開催中は安全管理に留意し、必要な対策を講じるとともに、サポーター、スタッフに対して事前研修として安全講習会を実施する等十分な対応がとれるよう教育を徹底した。

開催実績

サポーター研修 平成17年6月～平成17年8月 計6回

県立母と子の島での体験型環境教育・学習事業 平成17年8月22日～23日

反省会開催 平成17年9月26日

エ 海的环境学習の手引き(冊子)の作成(日本郵政公社-寄附金付年賀はがきの寄附金-助成事業)

市民や学校などが幅広く海的环境学習に取り組めるよう、海と陸域の関係、海の生態系や生物について分かりやすく紹介し、海的环境学習の手引きとして活用できる3冊分の冊子を作成した。

冊子の概要

学習編「海をもっと知ろう」

- ・海ってどんなところ?
- ・海の役目
- ・海と人とのかかわり
- ・海の生態系
- ・森は海につながっている など

実践編「海について体験しよう」

- ・海に行ってみよう
- ・生き物の観察方法
- ・漂着物の調査方法
- ・海に行く計画の立て方
- ・海での注意 など

復習編「海について考えよう」

- ・海で体験したことをまとめよう
- ・きれいな海を守るためにできること
- ・海について詳しく知るには
- ・ふりかえりシート など

オ 環境イベントへの出展等

エメックス活動の普及啓発と閉鎖性海域の環境情報の発信のため、環境イベントにパネルの出展等を行った。

「国際フロンティア産業メッセ2005」

開催年月日 平成17年8月4日(木)～5日(金)

開催場所 神戸市 神戸国際展示場1号館

「さわやか環境まつり」(ひょうごエコフェスティバル2005)

開催年月日 平成17年10月29日(土)～30日(日)

開催場所 兵庫県三木市 三木総合防災公園